

平和な自分ができること

成瀬中学校3年 澤山 葵

私は、平和について考えたときに、ある動画を思い出しました。

カジュアルティ・ノーティフィケーション・オフィサーという軍人の役割分担についての説明動画でした。日本では、おもに、「戦死通知担当官」と呼ばれています。文字を見て分かる通り、戦争で亡くなった方の遺族のもとへ行き、死を報告する役割のことです。この作文は、戦死通知担当官について調べ、その上で分かった、戦争をしてはいけない理由をまとめたものとなります。遺族の心情、死を報告することの辛さをよく考えて、今自分がどれだけ幸せなのか、実感して欲しいです。

私はまず、「戦死通知担当官」について調べることを始めました。はじめに言ったように、遺族に戦死を知らせる役割のことです。では、どのようにして、遺族に戦死を伝えるのか、詳しく説明していきます。

戦死通知担当官は、正式な任命を受け、報告しに行く兵士についての情報を確認します。主に、死亡した日時、死亡した理由、場所や、遺族のことについての情報です。次に、戦死通知担当官と従軍聖職者などの別の軍人でチームを組んで訪問します。このとき、従軍聖職者は、遺族の精神的な支え、ケアをする役割があります。そして、遺族に戦死を伝えます。伝え方には大切な規則があります。例えば、事実を敬意をもってはっきりと伝えるといったことです。遺族に最大の敬意をもって伝えます。最後に、知らせた直後はその場を離れず、遺族によりそいます。必要ならば、医療や支援を手配します。これが戦死通知担当官の仕事内容のすべてです。

さて、この仕事内容を見てどう感じたでしょうか。私は、なんだか自分がみじめに思えてきました。世界で、こんなにも苦しい仕事があることに気づき、普段の苦しいことの比にならないと、思ったからです。

戦死したことを知った遺族らも、それを伝える戦死通知担当官も、どちらも同様に辛いのではないかと、そう思った私は、戦死通知を受けた人の反応について、動画やインターネットを用いて調べました。

調べた結果、遺族は、戦死通知を聞き、深い悲しみや怒りを覚えることが分かりました。とある記事を読み、そのショックがじんと伝わってきたことがとても印象に残っています。そして、一番驚いたことは、自殺をしてしまうことが決して珍しいことでは無い、と知ったことです。自殺をしてしまうほど、追いつめられるようなことは、私たちの日常では、無いと思いました。

このようなことを調べた結果、戦争をして、辛いことは決して無くならないと思いました。戦争をして良いことは無い。はっきりと断言できます。そして同時に、今自分は平和なんだと、痛感しました。この幸せな日々を守るためにも、平和について知ることは大切だと思いました。今の私では、とうてい戦争を止めることはできません。でも、平和について調べて学び、伝えることはできると思います。だから、今、自分ができることを精一杯やろうと思いました。